

地方創生SDGs金融を通じた 自律的好循環形成に向けて

地方創生SDGs金融調査・研究会



第29回地方創生SDGs金融調査・研究会 有識者会議

2024年11月5日

1. **SDGs取組みにおける要件例の公表に向けて**
2. 先導的事例の調査・研究(糸島市へのヒアリング)

1. SDGs取組みにおける要件例の公表に向けて

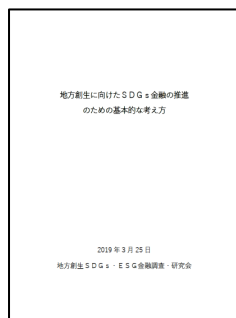
1. 先導的事例の調査・研究(糸島市へのヒアリング)

議事2 自律的好循環形成の先導的事例の調査・研究 ー進め方について

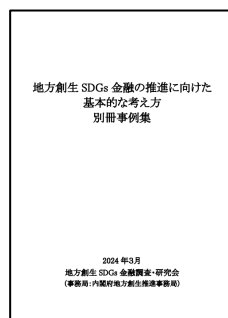
(1) 調査の目的と位置づけ

- 地方創生SDGs金融の考え方に沿う先導的な事例を調査し、またヒアリング調査による事例の実態把握を行う
- 「先導的事例」として公表し、今後各自治体・金融機関・事業者にて適宜参考としていただく

基本的な考え方



基本的な考え方 別冊



自律的好循環形成事例

地方創生SDGs金融の全体像を総合的に説明したものが、「地方創生に向けたSDGs金融の推進のための基本的な考え方」。こちらの参考事例として自律的好循環の形成に向かっている事例を調査し、ヒアリングを通じて先導的な事例としての示唆を抽出する

参考：昨年度のヒアリング結果

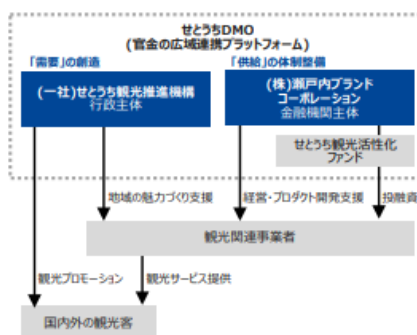
取組プロセス



主な特徴

- ✓ 広島県知事の「海の道構想」がきっかけとなり、瀬戸内の観光活性化の動きが始動
- ✓ 瀬戸内エリアの観光資源を活用し、エリア一体で観光地としての魅力を高め、観光客数及び旅行消費額を増やすことを目指した
- ✓ 瀬戸内7県及び地域金融機関が主体となり「せとうちDMO」を構築し、「せとうちエリアにおける観光需要の創出」及び「洗練された観光サービスの供給」を同時並行で実施
- ✓ 行政主体のせとうち観光推進機構が規制緩和等の行政対応が必要な事案のとりまとめやプロモーションを行い、金融機関主体の瀬戸内ブランドコーポレーションが観光サービスの整備や、観光関連事業者のプロダクト開発、事業支援を行っている
- ✓ 各地域金融機関の地方創生部署とも連携しながら、新たな観光コンテンツや宿泊施設等、瀬戸内エリアに様々な観光サービスを開発
- ✓ 観光需要をいかに取り込むかという競争環境を地域間に築くことで、エリア全体の活性化を加速
- ✓ 得られた収益をさらなる観光事業者に再投資したり、海外資本も呼び込むことで、エリア全体の観光市場を拡大
- ✓ 「地域とともに創る」ことを目指し、重要KGIに住民満足度を掲げ、定期的に地域住民アンケートを実施し、地域に還元できているかのモニタリングを行っている

取組体制の全体像



取組による成果・効果

- － 瀬戸内7県における旅行消費額は、2014年は約1.1兆円であったが、2019年には年間2兆円まで増加
- － 域内における新たな観光事業者が生まれたことにより、雇用を創出
- － アメリカのTIME誌にて、瀬戸内の島々が「世界の最も素晴らしい場所」50選に選出されるなど、世界でも評価されている

糸島市九州大学国際村構想 一産学官金連携による学術研究都市づくりー

テーマ：街づくり



(右) 国際寮 2020年8月オープン
(左) 国際ホテル 2021年8月オープン

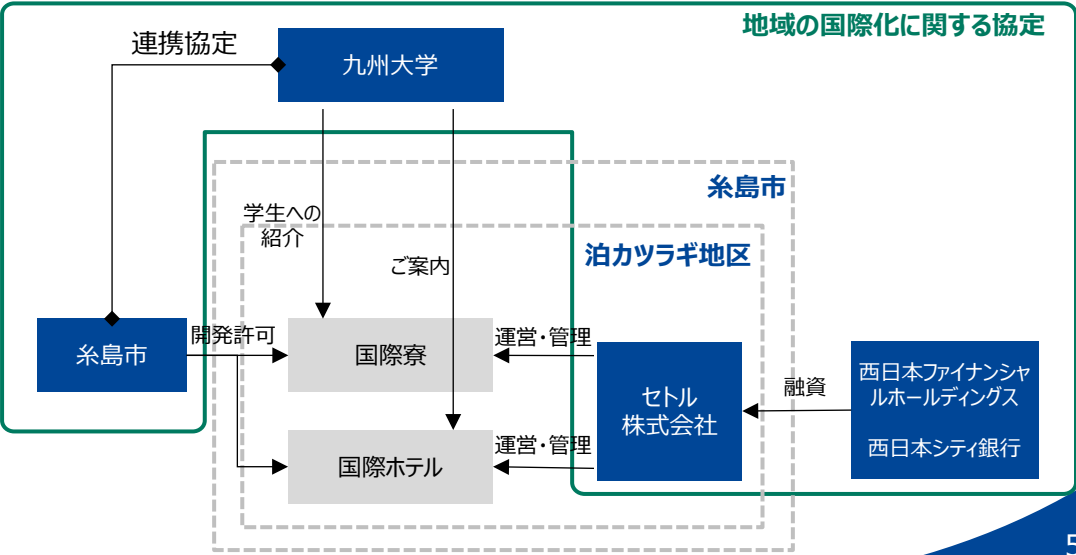
取組概要

糸島市、九州大学、西日本シティ銀行、地元不動産会社、西日本フィナンシャルホールディングスの5者で「地域の国際化に関する協定」を締結。それぞれの経営資源を活かしながら、学生寮、外国人留学生の短期滞在施設、ホテルの整備等を行うほか、糸島市が、交流施設、コンベンション施設、スーパーマーケットなどを誘致

背景

九州大学による糸島市へのキャンパス移転を計画。しかし学生宿舍やスーパー等の生活利便施設の不足が問題となった。また、九州大学は、文部科学省の「スーパーグローバル大学」に選定されており、現在も多くの外国人留学生が在籍。留学生や研究者向けの滞在施設の整備も課題であったことから、大学を核とした学術研究都市として、海外留学生や外国人研究生が集まる多文化共生のまちづくりを目指す

取組体制の全体像



参画者

- 福岡県糸島市
- 九州大学
- セトル株式会社
- 西日本フィナンシャルホールディングス
- 西日本シティ銀行

主なアウトカム

- 九州大学国際村における外国人居住者数及び居住率の増加
- 糸島市における外国人居住者数及び居住率の増加
- 学生寮の満室稼働